報 道 機 関 各 位

（報道発表資料）
令和6年9月26日
北九州市保健福祉局保健企画課
（担当：河﨑、正野）
電話：093－522－5721

北九州市感染症発生動向調査感染症週報

令和6年第38週（令和6年9月16日～令和6年9月22日）

＜発生動向＞

第38週は、前週に引き続き腸管出血性大腸菌感染症の報告が2件ありました。累積報告数は2022年で29件、2023年で25件でしたが、2024年は38週の時点で既に29件となっています。定点あたりの報告数は、全体的にほぼ横這いの傾向でした。

腸管出血性大腸菌は、75℃で1分間以上の加熱で死滅します。食材の中心までよく加熱して食べましょう。また、調理前、調理中、食事前や排せつ後には、手洗いをしっかり行いましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	北九州市		福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	6	149	15	650	245	10,787
腸管出血性大腸菌感染症	2	29	6	124	142	2,503
梅毒	6	124	23	620	196	10,162

■ 定点把握疾患報告数

病名	北九州市			福岡県		全国（前週）	
	報告数	定点当たり	定点当たり（前週）	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	68	1.94	2.00	471	2.38	25,985	5.28
インフルエンザ	3	0.09	0.17	97	0.49	2,520	0.51
RSウイルス感染症	6	0.25	0.21	54	0.45	1,869	0.60
咽頭結膜熱	1	0.04	0.17	26	0.22	923	0.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	1.54	2.13	516	4.30	6,500	2.08
感染性胃腸炎	71	2.96	2.29	405	3.38	8,990	2.87
水痘	2	0.08	0.04	66	0.55	403	0.13
手足口病	110	4.58	3.46	709	5.91	25,143	8.03
伝染性紅斑	6	0.25	0.00	7	0.06	667	0.21
突発性発しん	7	0.29	0.13	39	0.33	865	0.28
ヘルパンギーナ	4	0.17	0.79	57	0.48	2,249	0.72
流行性耳下腺炎	1	0.04	0.04	5	0.04	136	0.04
急性出血性結膜炎	1	0.17	0.00	1	0.04	8	0.01
流行性角結膜炎	0	0.00	0.33	2	0.08	315	0.45
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	15	0.03
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	2	0.13	25	0.05
マイコプラズマ肺炎	2	1.00	1.00	17	1.13	675	1.41
クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	0.00	0	0.00	6	0.01

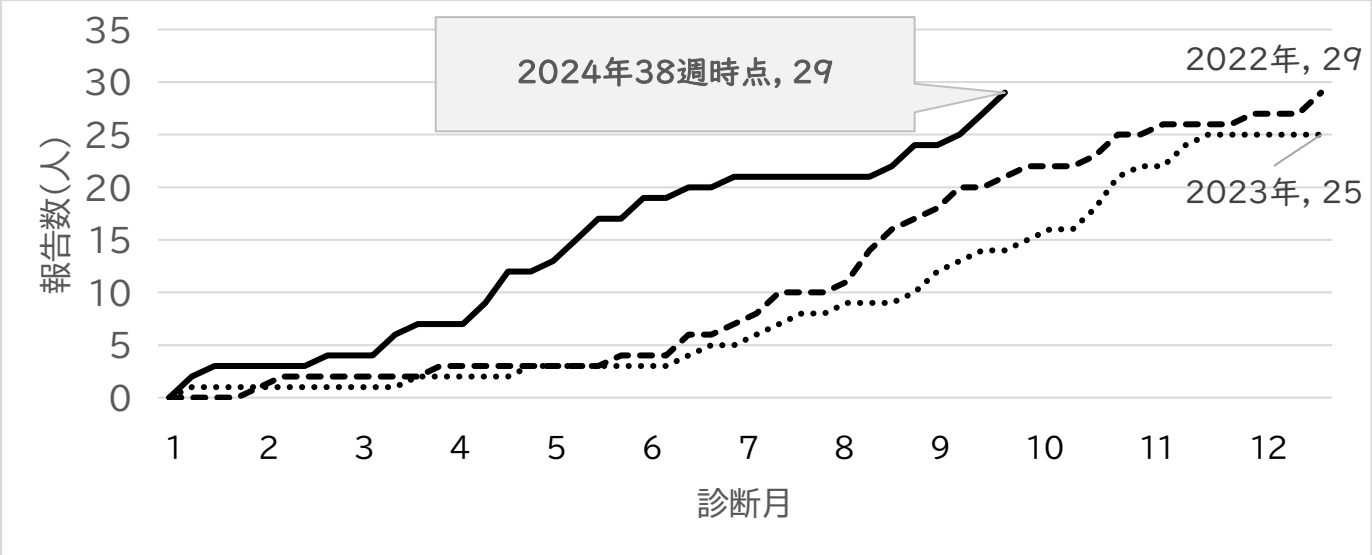
※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。
※全国のデータについては、更新時期が北九州市および福岡県の翌週となるため、前週の情報を掲載しています。
○北九州市感染症情報ホームページ（https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18300149.html）もご参照下さい。

腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加しています

累積報告数は 2022 年で 29 人、2023 年で 25 人でしたが、2024 年は第 38 週(9 月16日～22日)時点で既に 29 人になっています。

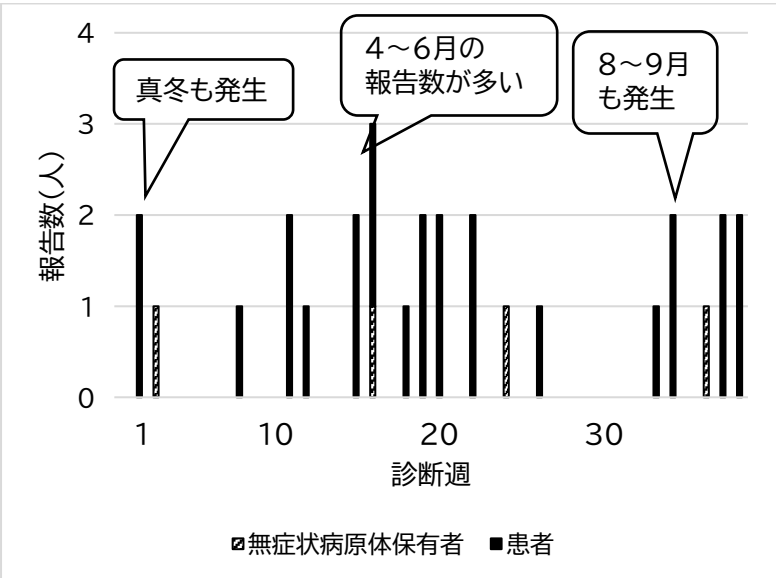
2024 年 1 月以降に報告された患者および無症状病原体保有者について、内訳をお示しします。

北九州市の年別腸管出血性大腸菌感染症報告数

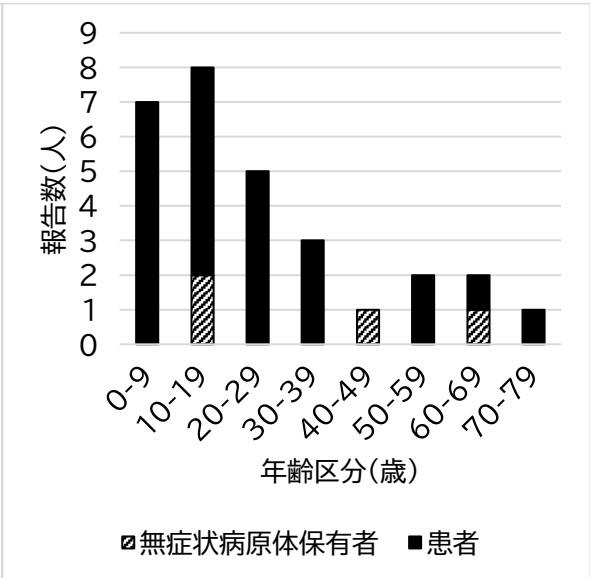


北九州市の 2024 年腸管出血性大腸菌感染症報告数(2024 年第 1 週～38 週合計)

(A)診断週ごとの報告数



(B)年齢区分ごとの報告数



診断週ごとの報告をみると、季節を問わず報告があります。年齢区分ごとの報告をみると、40 歳未満の若年者の割合が多くなっています。

腸管出血性大腸菌の感染では、全く症状のないものから重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで様々です。牛などの動物の腸管にいる菌で、主な原因食品は、牛肉や牛レバーなどの生食や加熱不十分な肉類ですが、食肉等から二次汚染された食品などあらゆる食品が原因となりえます。食品の十分な加熱と、調理前、調理中、食事前、排せつ後、おむつ替え後は手洗いを徹底しましょう。

北　九　州　市　保　健　所